

萱

2020・2

風萱集

亀田虎童子

浮寝鳥夢におどろく日のあらむ
木の家の木の香失せたる柚子湯かな
焼芋を二つに割りて見くらべる
もう少し生かしてもらふ粥柱
釣竿と銃を見分ける湖の鴨

木村 嘉男

無惨てふ星の数かな十二月
開墾の裔とし樵る年の暮
嶺暮るるはやさに凍る零れ水
饒舌の妻等と離れ年木割る
雪山の寢息ぬくしとねまるかな
霧ぶすまこゑしてかほの現れる
異国文字流れついたる秋の浜
ちよこなんと坐つてをりぬ敬老日
雁渡し後の始末をして措くか
ヘルメットの埃をぬぐふ防災日

松下 道臣

小島 良子

山並みの尖つてきたり冬の蝶
凍蝶や生死音なく入れ替はり
狩猟宿主も犬も物静か
蝦蟇口の小鈴の鳴りぬ一葉忌
羽子板市終り地面の平らかに
深々と禰宜の辞儀して七五三
吾もまたなりたきものや冬木立
古今集に越美なへしとも女郎花
紅葉にも夜半の嵐のありにけり
冬空を風呂より仰ぐ日和かな

出牛 進

萱集

進選

立冬や野川の水嵩衰へず 東京 ぶなかわのりひと

二度咲や娑婆つ気抜けぬ蟠り
泣き噓る野球少年冬の空
際やかに残る紅葉や雨上がり
郷友のLINEこちらは鯛起し

かいつぶり三兄弟かよく遊ぶ 東京 飯塚トシ子

点描の水鳥岸に鷓一羽
カーナビびたり街角の花八手
ヘルパーは女性ライダー冬の雨

一葉記念館電景に

気概の深紅冬薔薇

淡き灯の新生児室聖夜かな 東京 武田 未有

夕日なか風のかたちに散る木の葉
蜜柑の香させてエプロン立ち上がる
診断良き夫と対酌西施乳
花丸の暦にあはせ干蒲団

家の中を覗く野良猫暮の秋
灯火親し汽車の文鎮置いてある
落花生一株抜いて「もつていけ」
甘藷の穴より蟻の出てきたる
芳しき玄米ご飯冬の朝

千葉 光成 敏子

嶺をちに武蔵野暮るる草もみぢ
秩父嶺や風のかたちに冬の雲
なか空にひとひら舞ひぬ冬桜
冬日影人形堂のぬひぐるみ
樽洗ふ蔵の店裏花八つ手

埼玉 鈴木 愛子

茶畑の風止みてより冬の鵙
野火止の紅葉且つ散る平林寺
五重の塔と雪つり映し冬の水
変はらない忘年会がそこにある
山眠る天地無用の赤き文字

埼玉 新沢 伸夫

亡き母の鏡台磨く冬うらら
愛猫の寄り来て眠る霜夜かな
虚も実も呑みて静かな聖夜の灯
冬ざれの路地に雀や一葉館
幸薄き一葉の恋冬の虹

千葉 中山 恵子